

未来への伝承

104

石摺十六羅漢画

一切の煩惱を断絶し、

清浄の智慧を得た聖者たち



第一 賓度羅跋囉惰闍尊者



羅漢とは阿羅漢の略称で、梵語ではアルハット(Arhat)と云い、尊敬供養を受けるに値する人という意味があります。中国や日本に伝わって発展した大乘仏教では、一切の煩惱を断滅して清浄の智慧を得て、修学を完了し、もはや学ぶべきことがなく世間の供養を受くべき位に至った者と定義されています。後に賓度羅跋囉惰闍尊者を始めとして、16人の仏弟子を十六羅漢と称するようになりました。さらに時代が下がる、十八羅漢や五百羅漢といったものも生れ、主に禅宗系寺院において画像や彫像が作られ尊崇されました。

この羅漢画は、肥後国(熊本県)の性禪寺住職大空が天明2(1782)年に版行したもので、中国五代の画僧禅月大師貫休(832~912)が描いた絵をもとにしたようです。また、元の原画は清国の聖回寺に伝わったもので、清朝六代皇帝乾隆帝(1711~

99)が賛を認めた墨本であると第十六注茶半託迦尊者像の部分に記されています。

描かれている16人の羅漢たちは、手に杖や数珠・経典を持つ者や手の指が特異な形を示している者が見られます。また、主に岩に坐してはいませんが、その座り方は様々です。しかし、何といても一目で気になるのは、奇怪な雰囲気や漂わせつつも滑稽でもあるその面容でしょう。一人ひとりの特徴を見ていると時間のたつのも忘れてしまいそうです。

この「石摺十六羅漢画」は、法雲寺(市内高岡)に伝来したもので、4箱に4巻ずつが入り、二重箱に納められています。外箱の蓋表には「石摺十六羅漢画」、内箱蓋裏に「十六大阿羅漢尊者大雄山法雲正受禪寺」と箱書が見られます。南北朝時代から続く禅宗系寺院である法雲寺であればこそ伝わった資料といえます。

- 第一 賓度羅跋囉惰闍尊者
- 第二 迦諾迦伐蹉尊者
- 第三 賓頭盧頗羅楮誓尊者
- 第四 難提密多羅慶友尊者
- 第五 拔諾迦尊者
- 第六 跋提囉跋陀尊者
- 第七 迦理迦尊者
- 第八 伐闍那弗多尊者
- 第九 戌博迦尊者
- 第十 半託迦尊者
- 第十一 羅怛羅尊者
- 第十二 那伽犀那尊者
- 第十三 因揭陀尊者
- 第十四 伐那婆斯尊者
- 第十五 阿氏多尊者
- 第十六 注茶半託迦尊者

今回紹介した「石摺十六羅漢画」は、9月30日(日)まで博物館の第3展示室で公開しています。ぜひ、ご覧ください。
岡市立博物館(☎824・2928)